

北区 北海道議会議員

道見（どうみ） やすのり

北の元気玉が北海道を強くする!

Do-Mi通信 Vol.7

議会特集号

●環境生活常任委員会
●産炭地振興・エネルギー問題調査特別委員会

道見やすのり プロフィール



・昭和41年（1966年）札幌市生まれ
・北海道札幌新川高等学校卒業
・日本大学法学部政治経済学科卒業後、民間企業・会社経営を経て
　中央ビルメンテナンス（株）勤務（平成26年6月退社）
・平成10年　札幌市東区より札幌市北区太平へ転入
・党歴　平成21年 3月　自由民主党札幌市北区第4選挙支部入党
　平成25年11月　自由民主党北海道支部「HOKKAIDO」政治塾　卒業
　平成27年 4月　北海道議会議員に初当選
　平成31年 4月　北海道議会議員2期目当選
　令和3年　6月　自由民主党北海道支部広報委員会　委員長
　令和3年　6月　自由民主党北海道支部「HOKKAIDO」政治塾　運営委員長



新議場の見学
希望は当事務所まで
元気玉がご案内いたします!

〈主な公職〉
・（社）札幌青年会議所副理事長
・（社）札幌青年会議所こころの絆推進実践会議議長
・札幌北警察署少年補導員
・札幌北倫理法人会　顧問

〈好きな言葉〉
・悠々として急げ

〈家族〉
・妻、子供3人

〈趣味〉
・釣り、読書

北海道を見る



私たちは、北海道百年記念塔の解体に反対しています!!

令和４年第一回定例会で６億４千万円超の解体関連予算が可決されてしまいました。
このままでは、令和４年度中に解体準備工事が着工され、令和６年までに解体が完了してしまうことになります。

北海道百年記念塔は、
北海道開道百年を記念して着工されて、
１９７０年（昭和４５年）に竣工されました。

この塔は、
「開拓の先人に対し感謝と慰霊のまことを捧げ、
将来に向かってたくましい北海道の建設を誓う道民の総意を込めた記念塔」
として建設されました。

私たちには、
北海道の開拓に尽くされてきた
全ての先達に対する感謝と、未来の子供たちに
向けた期待の想いが込められた
北海道百年記念塔を次世代へとつなぐ責務
があるのだと考えています。



周辺住民をはじめ賛同いただいた
多くの道民の皆さんと共に、引き続き活動を継続して参ります。

北の元気玉は、

これまでの議会議論や
環境生活委員会議論の中で
「解体中止」を主張してきました。



「北海道百年記念塔について」

環境生活委員会
第四回定例会 終日委員会
2021年12月16日

環境生活委員会
令和4年第1回定例会 前日委員会
2022年3月2日

コロナウイルスに負けない為に!!

免疫を高める！ 新型コロナウイルスに負けないためには、免疫力を向上させることが大切です

●バランスの取れた食事
特別な食事よりも栄養バランスが取れた食事が大切です。

●適度な運動
体力を付ける為無理のない運動を！

●十分な睡眠・休養
ストレスは出来るだけ溜めない身体を冷やさない様心掛けましょう。

●マスク着用
特に人と会話する時はマスクは大切です。

ウィルスは自ら防ぐ！ 自分のため、みんなのため、そして大切な人のために。

●うがい・手洗い・消毒
常に清潔に保ちウイルスの侵入を防ぐことが大切です。

●笑って暮らす!!
楽しい事・笑う事は、リラックス効果があり免疫アップに繋がる。

●ソーシャルディスタンス
集団感染を防止する為に密集・密接・密閉を避けましょう。

令和４年 第１回定例会 一般質問 ～令和4年3月11日質問要旨～

アドベンチャートラベル・ワールドサミットについて



アドベンチャートラベル・ワールドサミット2023について

【北の元気玉】＜質問＞

ATWS2023について伺います。
開催結果や総括等を受けて、私たちのATWS2023への期待はより高まるものと容易に推測できます。
開催までの一年半で、ATWS2021の準備工程を繰り返すのでは二度開催する意味がありません。順調な開催を期待しているのではありません。私たちは、より効果の高い開催を期待しているのです。知事の見解を伺います。

【知事】＜答弁＞

道では、一年を通じたコンテンツの磨き上げや北海道全域での魅力あるツアーコースの造成のほか、アドベンチャートラベルに対応した新たなガイド制度の検討を進めている。
私としては、2023年に再び北海道でサミットが開催されるというチャンスを最大限活かし、全道域で機運の醸成を図るとともに、アドベンチャートラベルが本道観光の主要な柱の一つとなるよう加速的に準備を進めてまいる。

地域発のエクスカーションについて

【北の元気玉】＜質問＞

道内エクスカーションの在り方について伺います。
ATWS2023の参加者に提供されるエクスカーションは基より、多くの参加者に情報提供されるメニューの創出と共有が必要だと思うのです。道内津々浦々や四季折々に満喫できるアドベンチャートラベルの情報を提供することが必要です。
そこで、道が自治体や地域の観光協会に呼び掛けて、その地域に存するアドベンチャートラベルのコンテンツを、ATTA基準で磨き上げる取組みを主導し展開することを提案します。旅行商品の開発という意味でもあり、その地域の住民に改めて受け入れる覚悟を求めるものでもあると捉えています。
北海道では、余りに当たり前で、時に畏怖の念を抱かざるを得ない「自然」そのものが、私たちに活力を与え元気にすることを再認識することが出来ます。
道の見解を伺うと共に、知事の決意をお聞かせいただきたいと思います。





【知事】＜答弁＞

道では、アドベンチャートラベルとして求められる高い顧客ニーズに応えることができるコンテンツの発掘や磨き上げを道内自治体などとも連携して取り組んでいくとともに、一年を通じた全道各地の魅力ある商品造成を支援し、本道の魅力を世界に売り込む絶好の機会であるATWS2023の場において、世界各国のバイヤーやメディアに向けた道内各地の魅力を余すことなく紹介する動画を発信するなどして積極的にプロモーションしていく考え。

道見やすのり「120回602項目」の議会質問回数

【令和4年第1回定例会【一般質問】】～令和4年3月11日質問要旨～

企業局の行財政改革について

「稼ぐ企業局」について

【北の元気玉】∧質問∨



「稼ぐ企業局」になる為にも、自らの強みと弱みは冷静に分析しておくことが必要です。

私は、さまざまな危機に対応しながらも道財政への負担から脱却し、逆に寄与出来る程のチャンスが正にいま到来しているのだと考えています。

自らの強みを伸ばしていくことは、民間企業にとって避けることの出来ない、絶え間ない努力なのであります。

企業局は、自らの強みと弱みをどのように自覚し分析しているのかを公営企業管理者に伺います。

【公営企業管理者】∧答弁∨

企業局経営の考え方についてでありますが、脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギー導入といった社会的要請のもと、ゼロカーボン北海道に向けた新エネルギーの導入を加速するうえでの企業局の役割を果たすため、改修計画や経営リスクを見据えながら、電気事業で得られた収益の一部を道の一般会計へ繰り出し、道内の再生可能エネルギーのさらなる導入拡大などに充てており、今後も、道の施策を積極的に後押しすることとしてまいります。

企業局としましては、「経済性の発揮」や「公共の福祉の増進」という公営企業の基本原則を堅持しつつ、新たな事業への挑戦なども含め、経営の安定化に向け不断に取り組むことが重要な視点だと考えております。

道が作り出す新エネルギーについて

【北の元気玉】∧質問∨



次に、企業局が電気事業で作り出している新エネルギーについて伺います。

頂いた資料によると、電気事業で作り出している販売発電量は、令和2年度は3億0231万6千kWに上るそうです。そのうち非FIT適用となっている分は55%の1億9714万7千kWです。概ね3億kWの新エネルギーを販売していると判断することが出来ます。

ここで提案したいのは、非FIT分にあたる4割程度の発電量についてです。

「稼ぐ企業局」を目指すのであれば、利益の最大化を論むことが必要です。私が、総務部に問い合わせして、知事部局や教育庁、警察本部が使う電力量は、施設毎の入札等により単価は相違しますが、3年間の平均合計で、1619施設が1億4455万kWを3億44万円掛けて消費することになっています。

道の販売電力量のうち非FIT適用となっている分が2億kW超となっているので、全てを十分に賄えるだけの電力を生み出していることになります。更に、企業局の販売価格がその時々の入札価格以下であることを見込み、道として買取る価格が入札価格以下であることが担保できれば、双方の経済的有利性を確保することが可能になります。残りの分もダムが所在する自治体を中心に販売することが出来れば、無駄なく消費することが可能です。

北海道庁関係の全ての施設を、新エネルギーによって運営させることが出来るのは、ゼロカーボン北海道を掲げる私たちにとってはあるべき姿となるのではないでしょうか。

この取組みは、企業局の経営戦略上は基より、道の施策方針にも合致したものと言えるでしょう。知事と公営企業管理者の見解を伺います。

【知事】∧答弁∨

再エネ由来電力の調達についてでありますが、道では、事務・事業に伴い生じる温室効果ガス排出量を2030年度までに2013年度比50%削減する目標を設定しており、その達成に向けて、現在、再エネ由来電力の調達手法や再エネ設備の導入などについて検討を進めているところであります。

企業局が発電する再エネ電力を道有施設で活用することは、更なるCO2排出削減と、電気料金の削減にもつながる可能性がある一方、庁舎などでの電力需要と企業局からの発電供給を同量にするための需給調整が必要となるなど、様々な課題があると考えております。

今後、企業局と一体となって道有施設での活用検討を進め、北海道にとって貴重な企業局の再エネ電力が削減目標の達成につながることを期待しているところであります。

【公営企業管理者】∧答弁∨

道有施設への電力供給についてでありますが、FITが適用されていない発電所の電力については、国の電力システム改革による小売全面自由化に伴い、令和2年度から一般競争入札により、小売電気事業者に対し売電しており、最大収益の確保に努めているところでございます。

この電力を道有施設に売電することは、ゼロカーボン北海道のモデルとなり得る取組であるとともに、道有施設の電気料金を軽減する手立てとなるその一方で、企業局の発電量と道内全域に及ぶ約1,600の施設において複雑で高度な受給量の調整が小売電気事業者に求められるなど、様々な課題もあることと承知をしております。

今後におきましては、小売電気事業者とのヒアリングとあわせ、関係機関からご意見を伺う場を設置し、道有施設への売電も含め、実効性ある様々な有効活用の方法について検討してまいります。

経営戦略室の新設について

【北の元気玉】∧質問∨



次に、経営戦略室の新設について提案します。

「稼ぐ企業局」となる為には、現時点での強みである電気事業の拡大が必須です。

それは発電事業に留まることなく、道総研や民間企業と共に世界から先進的な技術の取り込みを模索し、道内外に導入される事業のコンサルタント的役割を果たすことで権利金を獲得することも十分に可能となります。

更に、世界の先進的な情報や過去の取り組みの成功例や失敗例を収集し、シンクタンク的な機能を持ち合わせることで、企業局自身や自治体や民間企業が今後取り組む企業活動の力強い根拠や支援につながると考えられます。

ゼロカーボン政策が華やかし今、自然エネルギー源の宝庫を自称する北海道こそがとれる立ち位置なのではないかと信じています。

私は、このような基礎的活動と共に稼ぎ出さなければならない利益をシュミレーションしたり、事業計画を立案し上申する部署が必要だと提案させていただきます。

知事と公営企業管理者の見解を伺います。

【知事】∧答弁∨

企業局との連携についてでありますが、道では、「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、国内随一のポテンシャルを有する再生可能エネルギーなど本道の強みを活かし、脱炭素化に向けた様々な取組を展開することとしており、そうした中で、水力やバイオマス、太陽光など、本道の豊富なエネルギー資源の利活用や調査研究を進める企業局の果たす役割は非常に大きいものと考えております。

これまでも企業局が有するノウハウや知見を全庁的に活用する観点から、庁内関係部局で構成するプロジェクトチームへの参画や、人事面での交流を行ってきたところであり、今後とも、企業局において、再生可能エネルギーの導入促進に向けた体制づくりが進むよう、より一層連携を深めてまいります。

【公営企業管理者】∧答弁∨

「ゼロカーボン北海道」を旗印に大きく舵が切られる中で、今後とも事業の安定経営に努めるとともに、地方公営企業法の基本原則のもと、「稼ぐ」という視点を持ちながら、しっかりと収支見通しを定め、収益性のある新たな事業についても積極的に検討を行ってまいります。

こうした取組の実現に向けて、企業局としては、経営の専門家や関係する団体、企業との意見交換をはじめ、議員のご提案のように、庁内関係部局との連携強化を図りながら、企業局内に企画調整ポストを新設するなど、組織の充実に努めてまいります。

あなたの暮らしに「富を留め」「富を呼び込み」暮らしを元気に!!

経営戦略について

【北の元気玉】∧質問∨

次に、経営戦略について伺います。

世界では、私たちが想像するより遥かに進んだ技術が次々に生み出されています。

ゼロカーボン北海道を目指す私たちにとって、全国に自然エネルギー源の宝庫であることを宣言する私たちにとっても、この分野における優位的立場を保ち北海道の活力を創出していくことは絶対命題でもあると考えています。より野心的で重層的な戦略を展開していくことが必要です。

直ちに改定していくことが必要です。公営企業管理者の見解を伺います。

【公営企業管理者】∧答弁∨

経営戦略の見直しについてでありますが、現在、道におきましては、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、「地球温暖化防止条例の改正や「省エネルギー・新エネルギー促進行動計画」の見直しなどに全庁を挙げて取り組む中にあって、本道の豊かな水資源を活用したクリーンなエネルギーを供給する企業局の役割は、これまで以上に大きくなるものと認識をしております。

企業局としましては、今後とも、令和2年度からスタートした経営戦略のもと、持続可能な経営基盤の強化を図るとともに、新たな電源開発の可能性を探る取組やコロナ禍における本道経済の動向など社会情勢の変化を踏まえ、脱炭素化といった時流をとらえた先導的役割を果たすよう、経営戦略のブラッシュアップについて検討してまいります。



知事の決断について

【北の元気玉】∧質問∨



最後に、知事の決断について伺います。

これまで提案してきたように、企業局には「稼ぐ企業局」となり得るために野心的な改革を求めています。知事には、その立場で積極的な支援をしていただかなくてはいけません。

まずは短中期的な視点に立って「経営戦略室」の創設と、その役割について人的や予算的な判断を行って頂けないものでしょうか。

知事の挑戦的な英断を期待しています。見解を伺います。

【知事】∧答弁∨

今後の財政運営についてでありますが、電気事業会計においては、平成22年度からその収益の一部を一般会計へ繰り出し、道内の再生可能エネルギー導入拡大の推進などに寄与してきているところであり、今後とも、企業局と庁内関係部局がより一層連携し、電気事業の収益を活用しながら、引き続き、ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組を進めていくことが重要であると考えています。

道としては、ゼロカーボン北海道をはじめとした政策展開にも適切に対応していくことができるよう、財政の健全化に向けた取組を進めてまいります。



一般質問の様子を動画でも

YouTube 道見やすのり公式チャンネル

定例会議会一般質問の様子を試験的に納め、皆様にいつでも見て頂けるように致しました。

文字数の制限から記載できない部分も動画でご覧いただけます!

https://www.youtube.com/watch?v=ItF_065NbQo

北の元気玉の勇姿をご覧ください。

SNSも投稿中! 是非ご覧ください。

Facebook Twitter

道見やすのり事務所
〒002-8008
札幌市北区太平8条5丁目2番5号
TEL 011-773-1211 FAX 011-773-5051
HPアドレス https://道見.jp
メールアドレス info@domi.jp